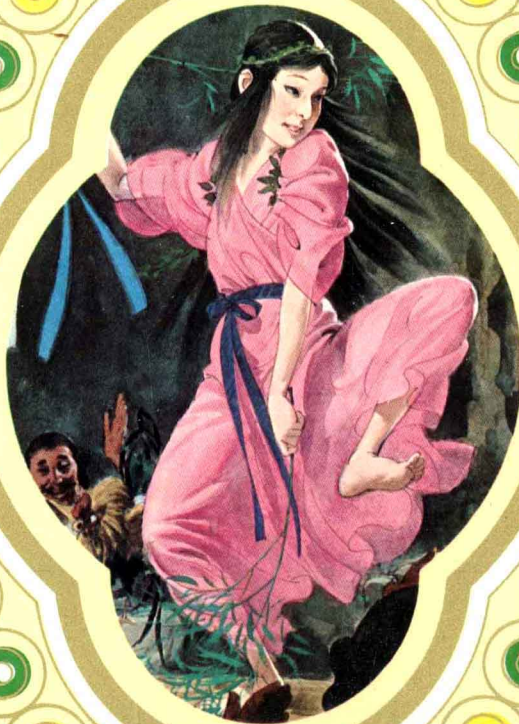


カラ名作
少年少女世界の文学



■NDC909／昭和 45 年／ 430 P 22.8 cm 小学館版

——カラー版少年少女世界の文学／第 26 巻／日本編 1——

- 昭和 45 年 4 月 25 日発行
- カラー版名作全集少年少女世界の文学
第 26 巻／日本編 1
- 古事記
日本古典名作集
竹取物語
太閤記
- 定価／500 円
- 編者／◎名作選定委員会
- 発行者／相賀徹夫
- 発行所／株式会社小学館
東京都千代田区一ツ橋 2-3-1
- 郵便番号／101
- 電話／東京 (263) 2111 (代表)
- 振替／東京 200 番
- 印刷・製本／大日本印刷株式会社
- 本文用紙／MC 書籍用紙／本州製紙株式会社
- 表紙／S ベラン／特種製紙株式会社

造本には、じゅうぶん注意しておりますが、万一落丁・乱丁
などの不良品がありましたら、おとりかえいたします。

Printed in Japan

8393-215026-3068

■ カラー名作 ■

少年 世界の文学
少女

26

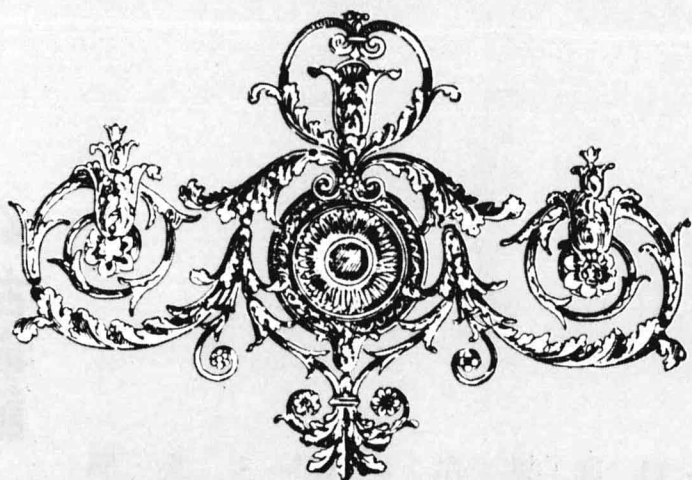
日本 - 1

古事記 / 十訓抄

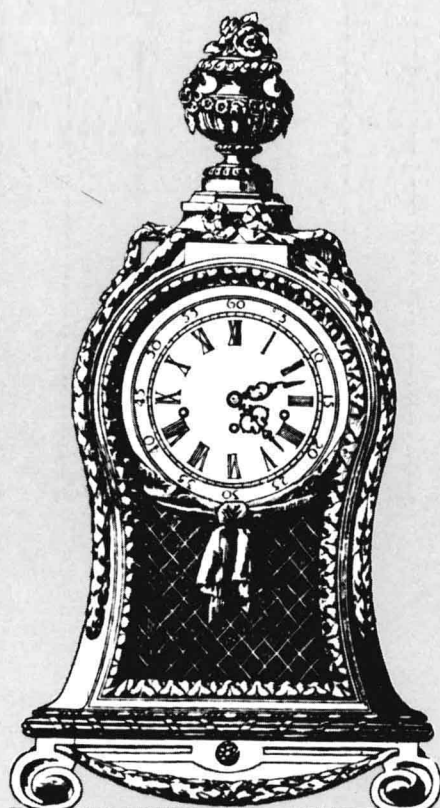
竹取物語 / 御伽草子

今昔物語 / 宇治拾遺物語

太閤記



もくじ



カラー版 少年少女世界の文学



古事記

及川甚喜・文

神の誕生……………17

黄泉国まで……………24

スサノオノミコト……………31

天の岩屋……………35

おろち退治……………40

白うさぎ……………47

国作り……………52

国ゆずり……………61

天くだり……………71

ウミサチ、ヤマサチ……………77

東へ、東へ……………90



日本古典名作集

倉島栄子・文

初めの天皇……………99

ひらける国……………105

悲しいサホビメ……………113

ものいわぬみ子……………118

ヤマトタケルノミコト……………123

火の中、あらしの海……………132

英雄の最期……………139

145

今昔物語……………146

長い鼻……………146



竹取物語

佐伯千秋・文

187

酒呑童子

171

御伽草子

171

余五大夫とはち

167

十訓抄

167

さるといけにえ

162

すずめの報恩

153

袴垂と保昌

150

宇治拾遺物語

150

(一) 竹の中の女の子……………188

(二) 村いちばんのかぐや姫……………193

(三) 五人の殿さま……………197

(四) 五つの願い……………204

(五) 石作の皇子さまの考え……………207

(六) 車持の皇子さまのはかりごと……………211

(七) 火ねずみの皮ごろも……………217

(八) 竜の首の玉……………220

(九) つばめの子安貝……………224

(十) みかどとかぐや姫……………228

(十一) かぐや姫の涙……………232

(十二) 月からの迎え……………235



太閤記

宮 敏彦・文

241

日吉丸の巻

242

(一) 光明寺

242

(二) 盗賊とでっち小僧

258

(三) 野武士のやかた

272

(四) うい陣

285

(五) 織田信長

295

藤吉郎の巻

305

(一) 三日ぶしん

305

(二) 長短やり試合

325

(三) 義元は桶狭間にあり

333

(四) 洲股城、完成す……………348

(五) 軍師竹中半兵衛……………361

(六) 稲葉城奇襲作戦……………370

秀吉の巻……………381

(一) 高松城の水攻め……………381

(二) 敵は本能寺にあり……………390

(三) 賤が岳の戦い……………399

(四) 秀吉の天下……………409

読書のしおり 飛田文雄……………416

世界の文学絵地図 日本編1……………424

□監修（五十音順）

川端康成 中野好夫 浜田廣介

□編集委員（五十音順）

石川 湧 岩崎純孝 植田敏郎 小出正吾
阪本一郎 関 英雄 滑川道夫 福井研介
村岡花子 彌吉光長

□装丁

田辺 誠

□口絵・さし絵

古事記／池田浩彰

日本古典名作集／竹山のぼる

竹取物語／若菜珪

太閤記／柳 柊二





古事記

アマテラスオオミカミが岩戸に隠れ、世界はまっくら。困りはてた神がみは、オオミカミを誘いだそうと、手拍子高く歌い、アメノウズメノミコトは、身ぶりおかしく踊ります。

たい こう き
太 閤 記

はし び せ い よ し あ け ち み つ ひ で て ん か わ け め の
羽柴秀吉と明智光秀の天下わけ目の
合戦がはじまった。地ひびきのよう
な とき の 声 。 必死に戦う兵士たちで、戦
場はたちまち血の海と化した。

398ページをごらんください。







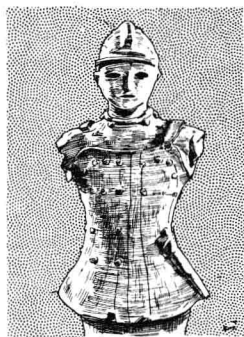
「姫さまよう。」^{こゝろ}声をかぎりに^{こゝろ}叫ぶおじいさんの^{こゝろ}声をあとに、
天の^{はね}羽ごろもを着たかぐや姫は、まいあがるように^{あそび}歩きだ
しました。金色の^{きんいろ}月の^{ひかり}光があたりをまばゆく照らしています。

★★★★★★

にほん
日本 — I

こ じ き
古 事 記

■ おいかわ じん き ぶん
及川 甚喜 / 文
■ いけ だ ひろ あき が
池田 浩彰 / 画



やまた いなば しろう
八俣のおろち、稲羽の白
うさぎなど、民族の心の
ふるさと 神話のかずかず

★★★★★★